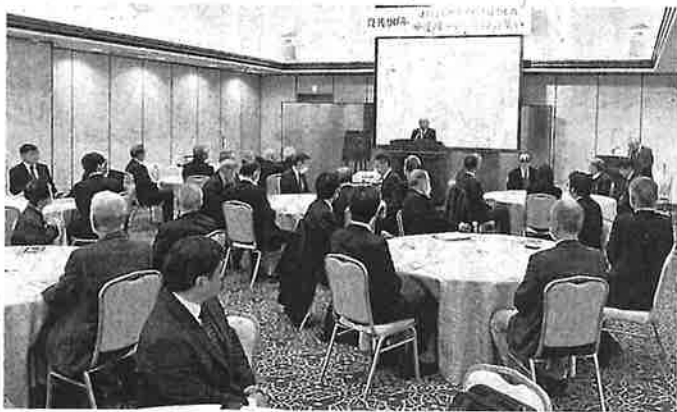


安達峰一郎博士(山辺出身)没後90年で「集い」 平和への思いつなぐ

東京



安達峰一郎博士の功績をたたえた追悼の集い
＝東京・一ツ橋、如水会館

国際司法裁判所の所長を務めた安達峰一郎博士(山辺町出身)の没後90年を記念した追悼の集いが6日、東京・如水会館で開かれた。法による世界平和を目指した安達博士の偉業をたたえ、その思いを後世につなぐことを誓った。

安達博士は外交官を経て1931～33年に国際司法裁判所(オランダ)の所長、34年から同裁判所裁判官を務め、同年12月に65歳で亡

くなった。集いは安達峰一郎記念財団(鈴木正貢理事長)が主催し、約50人が出席。柳原正治放送大学特任教授が「戦争のない『黄金の時代』を追求した安達峰一郎の軌跡」と題して講演した。

柳原特任教授は、安達博士がドイツ軍侵攻後の17年に駐ベルギー特命全権公使に就き、第1次世界大戦の悲惨さに直面した衝撃から戦争抑止を考えたと分析し

た。安達博士は国際法制度の再構築に深く関わっており「目指したのはひたすら平和を祈念することでも、武力である意味の平和を実現することでもなく、その中間点」と説明。「博士が残した遺言は、国際平和の実現に国際法が必要で、常に改善、拡張することの大切さだ」と解説した。

同じく所長を務めた皇后雅子さまの父・小和田恒さんも出席し「安達博士は自分にとってメンターだった。世界の人々に知ってもらう必要がある」と述べた。元外務事務次官・藪中三十二さん、ヒルス・ベスホー・プルッフ駐日オランダ大使もあいさつした。

(坂本由美子)